

磐城時報

編輯者 石城郡平町野田屋四十四
印刷者 石城郡平町野田屋四十四
印刷所 石城郡平町野田屋四十四
電話 一四四
廣告料 一行十四字五錢
日刊（日曜、祭日）休刊

秘密裡に開催した 第三校委員會

立町裏説が有利らし

平町第三小學校新築委員會は過十二月から引續き毎月十五日を假開催の豫定であつたが、俄然期して生産米の共同販賣を行ひ南町と立町裏との二派に別れ議論紛騰するに至つたので委員會開催を見合せてゐたが、十二日午前九時から平水道部樓上に於て極秘裡に委員會を開催した、委員會の意圖は秘密會に屬し知るを得ないが、大體立町説が過半数を占むらしい見込である

米共同販賣

大浦倉庫の
開市毎に好續
石城郡大浦村農業倉庫では昨年四戸田雄章と改名した。

暴飲暴食をすするな

腸チブスの豫防法

豫防に努力する平署と役場

平地地方民を戦慄せしめた天然痘は終熄し町民安堵の胸を撫でた。然るも今度今度は腸チブスが蔓延猖獗を極め現在患者二十數名に達するに至つたので平町役場、平警察署では極力豫防の方策を講じてゐるが、豫防法に關し係員は語る。

平町の景況

平町地方も久しい間の不景氣が脱出して好轉歩調をたどるに至つたものか昨年あたりまでは殆んど手の出し様もなかつた大きな空家が目抜きに散在してゐたのに昨今ではぼつ／＼ながらこれ等の空家も店構ひなどを改造されて世に出る様になりその他全町の空家も昨年比に著しく減少した傾向を見せて十三日午後四時から平劇場開演の狂言は素人が見ても子供が復活と共に好氣氣采の道程に入つたものご観測して通りなかに見ても容易く了解が出来る面白るべく銀行、郵便局方面より見たる金融事情等も昨今著しく預金の増額を示して地方民が一般組は既報の如くであるがその中、大名加茂秋里、太郎冠者神保良三、猿伊賀良志、猿多々良勇

天體觀測實習を兼ね 磐城丸鯉漁場探検

大型漁船運轉手十名を乗せ 来る十五日頃出帆

水産試験場の磐城丸は船體修理で提供したの十五日小名濱裏中館向に大黒屋支店を開設し出帆四倉、江名、中の作、小名濱等の大型漁船運轉手、機關士十餘名を乗せていかなる遠い沖合に於ても難破しても船自身を兼ね伊豆七島から八丈島方面まで約廿日間の豫定で鯉漁場の探検を行ふことになつた、鯉群はすでに静岡縣下の沖合まで来遊してゐるので磐城丸で本縣の初漁を得ることにならうと。

大黒屋酒店 支店を設置

勿來町大黒屋赤津修一氏醸造の銘酒、酔の郷は年と共に好評を博しつゝあるが今回更に同店醸造の吟醸、都々逸を破格の値段

子供が觀ても面白い 觀世會の能狂言

十三日平劇場に開演

平觀世會主催和泉流多々良外茂三師一門能樂狂言並に素談會は十三日午後四時から平劇場開演の狂言は素人が見ても子供が復活と共に好氣氣采の道程に入つたものご観測して通りなかに見ても容易く了解が出来る面白るべく銀行、郵便局方面より見たる金融事情等も昨今著しく預金の増額を示して地方民が一般組は既報の如くであるがその中、大名加茂秋里、太郎冠者神保良三、猿伊賀良志、猿多々良勇

藝妓の枕元で 組頭が一人心中

海軍ナイフで腹を斬る 赤心堂病院にかつき込む

川部村消防組頭部武(四四)は其後小野新町に較替えしたが十一日午後十時頃頃田村小野新女に未練を有つてゐる團部は其町藝妓屋兼料理店北極館方に後もしきりに小野新町に通ひ一於て就寢中の同家抱藝妓相馬部週間程前からは女に對し心中を中村町生いづ事三浦たか(二)勸めたがその都度女は逃げ、十一の枕元で海軍ナイフを以て一日前死を迫つた處女はそのま自分の小腸部を横に長き三寸深ま自宅に歸つて寝てしまつた。苦悶中を發見し大騒ぎとなり小を悲觀した結果前記の始末を演野新町病院で應急手當を加へた上十二日午前一時小野新町署員が附添の上平町に來り出町赤心堂に入院加療中であるが生命危篤である、團部組頭が自殺を企てた原因については所轄小野新町署で調査中であるが三浦たか(二)は元來町字窪田源助町藝妓(五)は十二日午後一時半頃組してゐた當時團部組頭に見込ま屋町街路で遊戯中尼子亭吉田直落籍されて三ヶ月程同棲して之助方小林虎雄の連轉する平、意となつたのでたか(二)は小名濱町部に負傷し藤沼醫院で加療中であるが生命危篤である。

如來寺の小松學俊 人妻を強姦せんとす

平檢事局に告訴さる

四倉町如來寺住職小松學俊(四九)氏は去る二日平町出町猪狩(三三五)から平區裁判所檢事局に強姦未遂罪の告訴を提起され十三日小松氏は檢事局の取調べをうける筈であるといふが、告訴状の内容によれば、小松學俊は三月十日平町出町猪狩千勝方に投宿し翌十一日午前九時頃千勝が不在中その妻とめを怪しからぬ行為をなした上その胸を突いて押し倒し強姦せんとした際千勝が歸宅したのを幸ひ事なきを得たが、近時我國の思想界は頹廢し宗教家、學者は何れも之が善導に努力してゐる折柄、その善導すべき立場にある僧侶がかくの如く國法の禁を犯すのは言語同斷で國家社會を毒するものであるから所屬宗派は断平たる處置をとるべきである。云々

少女 自動車の轢かる 生命危篤

平町字紺屋町榮作長女佐藤てるは十二日午後一時半頃紺屋町街路で遊戯中尼子亭吉田直落籍されて三ヶ月程同棲して之助方小林虎雄の連轉する平、意となつたのでたか(二)は小名濱町部に負傷し藤沼醫院で加療中であるが生命危篤である。

椿の花を 持つた后山夫

落磐で即死
内郷村大字宮磐城炭礦后山夫又葉郡川内村生れ杉本(三〇〇)は十日午前七時頃作業に従事せ

夫が死んで 貰つた大金

情夫に持ち去らる 石城郡内郷村大字高坂木村きよ (三三)は昨年三月良人が坑内火 災で死亡した際千四百圓の弔慰 金を受けその後坑夫若手 縣生れ石川政之助(二七)を家へ

片

賈 郎 生 役

勢農黨、無産青年、評議員、 解散を命ぜらる、ついでに彼 等を赤露へ追放したとどうた

彼等は先に治安維持法の撤廃 を叫んだ、その裏面には國體 を變革せんとし、私有財産制 度を破壊せんとする思想の流 れを見逃す事が出来ない。

これに對し日本の司法權は何 とも爲し得ないか。 イタリにを思ふ。

先に大杉を倒した甘粕は法 に問はれ、勢農黨本部を襲つ た趣國會員は縛られた。

國家を覆滅せんとする逆徒を 保護せねばならぬ我が國の司 法。

此處にも我國法の矛盾を見出 す。

引込み同様にしたのである。政之 助は在の金を銀行預金にして澄 ぐより土地を買ふ方がよいとて 去る五日現金七百五十圓を持ち 出したまゝ行方をくらましたの でまよあをくみつて十日午後 平署へ政之助の行方捜索を願ひ 出た。

大黒屋支店
電話三〇六番
四月十四日より十八日迄五日間
銘酒 醉の 郷 一升壹圓五十錢ヲ壹圓貳拾錢 同 都々逸 一升壹圓ノモノヲ八拾錢 尙賣出期間後も五合理金買上毎に謝恩券二枚ニテ 酒一合ト交換贈呈

光風齋祐月 雛人形小道具一式
大勉強賣出し
平町二丁目

陳野洋品店
京都齊ヒナ人形 小道具一式 大廉賣
玩具行商人數名募集
平町二丁目

募集廣告
小店員 十三才ヨリ十六才 五名
平町三丁目 丸はん家具店
徒 弟 十三才ヨリ十六才 十名
平町新田前 丸はん家具製作所
◎詳細面談致シマス

山崎合名會社
東京支店
電話一四九七五番
振替東京一九七五番

金太郎玩具店
特製雛人形賣出し
平町三丁目

支那六神丸
特約店 平町五丁目 山野邊藥局

新學期來る
大谷計時病院
瑞製西馬八マ形 石七側ム一ロク
五圓五十錢
【番九一話電】目丁三町平

栗守酒
大平屋藥店
平町一丁目 電話六四二二

牛	中	肉	百	金	三
上	肉	同	金	五	十
口	肉	同	金	七	十
ヒ	肉	同	金	九	十
豚	肉	同	金	三	十
口	肉	同	金	六	十
廉	肉	同	金	六	十
食	肉	同	金	六	十
廉	肉	同	金	六	十

旗 全八巻
空 全十一巻
燃ゆる渦卷 六巻
紅槍は錆びても 全六巻
東京日々新聞連載 原作三上於菟吉
巨篇炎 の 空 全十一巻
他社の模倣的作品を一律に封印する名篇。大松竹が自重と責任を以て完成せる本映畫こそ眞の「炎」の空である。
主演 河部五郎、中山介次郎
剣史叛
地上の惡は闇に生き、光は闇を追ふ、闇を好む者に盗心多く、光を求むる者は幸なりとか。
今週映畫長尺 土曜 日活高級常設
今週映畫長尺 学生テリ 松竹高級常設

力キ貝料理の王
料理の王
電話一三七番